

第3専門部会（政策目標4）に関する意見等

No	委員名	意見種別	頁	該当箇所	内容及び意見理由	修正案	市の回答
1	鈴木絢子 委員	①質問	84 85	1 教育環境の整備 ③現状と課題 ■現状 ・小・中学校の無線LAN環境の改善、中学校のパソコン教室への教育用パソコンの更新、小・中学校への電子黒板更新等を進めていきます。 ④施策の方針 ・ICTを活用できる学習環境を整え、学校全体の情報環境整備を推進します。	現在各学校内の無線LAN環境はある程度整っており、ICTを活用できる学習環境は整っていると思われるが、現状どういった課題があり、どのような改善を考えているのか。		【教育総務課】 各学校の無線LAN環境はGIGAスクール構想に基づき令和2年度から環境整備を進め、構築から5年程が経過していることから、文部科学省が推奨するLAN環境のデータ伝達速度を下回っています。GIGAスクール構想の進捗により、GIGAネットワークの使用頻度は大幅に上がり、現在の学校生活になくてはならないものになりました。 今後は、ネットワークアセスメントを進め、必要な環境整備手段を割り出し、各学校のLAN環境整備に努めていきます。
2	鈴木絢子 委員	①質問	85	1 教育環境の整備 ⑤基本的な取組 「学校給食センターを最大限に活用した食育と地産地消の推進」における主な取組のうち、『今後の児童生徒数を見据えた学校調理場の集約』	P84の④施策の方針にもある『老朽化が著しい調理場』はどこを意味し、今後の集約はどのような構想を考えているのか。		【教育総務課】 単独調理場の八幡野小学校、共同調理場の宇佐美小学校、門野中学校はいずれも老朽化が進行し、安全・安心の給食提供のため、設備の修繕や備品の交換により対応しています。 伊東市の児童・生徒の1日当たりの総食数は現在3,100食数ですが、令和13年頃に教職員を含め2,500食になることが考えられます。 具体的な計画はありませんが、調理から提供までの時間などの制約がある中で、学校再編も見据え、集約を検討してまいります。
3	鈴木絢子 委員	①質問	85	1 教育環境の整備 ⑤基本的な取組 「最先端のICT教育環境整備の充実」における主な取組のうち、『大型提示装置（電子黒板）の小・中学校全普通教室更新』	電子黒板の更新はどのくらいの年数と考えているのか。		【教育総務課】 電子黒板の整備は、小学校は令和元年度整備・令和2年度使用開始、中学校は令和2年度整備・令和3年度使用開始しています。 小学校7校、中学校2校（北中・対島中）は移動式電子黒板、中学校3校（南中・宇佐美中・門野中）は、使用教室の狭さや生徒数の影響により、プロジェクター型の電子黒板を使用しています。 一般的に電子機器の更新は5年が目途とされていますが、ほぼ順調に利用されています。 今後、使用頻度による経年劣化のため、故障の頻度も上がってくると予想されますが、児童・生徒数によるクラス数の増減、学校再編の進捗状況を見据えながら、学校生活に必要な台数を割り出し、移設や更新により対応して行く予定です。
4	竹本委員 (部外)	②提案	85	1 教育環境の整備 ⑥役割分担	「・未来を拓く子どもたちが……学校の規模・配置の適正化を進めるとともに」 これは、ICT機器等と併記しない方が良いのではないかと思います。	(修正記載・追加記載の提案) ・未来を拓く子どもたちが……学校の規模・配置の適正化を進めます。 ・ICT機器等の環境整備を行います。 ・体育館の空調設備設置を推進します。	【教育総務課】 修正案のとおりで良いと考えますので、ご意見の通り修正いたします。

第3専門部会（政策目標4）に関する意見等

No	委員名	意見種別	頁	該当箇所	内容及び意見理由	修正案	市の回答
9	鈴木絢子 委員	②提案	86	2 未来を創る教育の充実（小・中学校） ③現状と課題 ■現状 ・特別な支援を必要とする児童・生徒 ・不登校の出現率	現状において第11次では特別な支援を必要とする児童、生徒の増加率、また不登校の出現率について分かりやすく表示してあった。その方が分かりやすいのではないか。		【教育指導課】 文科省も示していますが、現在、特別な支援を必要とする児童生徒や不登校児童生徒については、その考え方やあり方が多様化しており、一概に前年度と数値のみで比較することが適切ではないため、数値での表示を行っておりません。特に、不登校については文科省通知では「取り巻く環境によっては、どの児童生徒にも起こり得るものとして捉え、不登校というだけで問題行動であると受け取られないような配慮が必要」「『学校に登校する』という結果のみを目標にするのではなく」としています。 なお、特別な支援を必要とする児童生徒とは、知的障害や発達障害など個別の教育的ニーズをもつ児童生徒のことであるため、直接不登校問題のことを示しているものではありません。
10	竹川委員	①質問	86	2 未来を創る教育の充実（小・中学校） ③現状と課題 ■現状 「特別な支援を必要とする児童生徒が増加傾向にあり」	具体的には「不登校問題」などのことを示しているのか教えてください。コロナ禍の悪影響を受けた小学校低学年対策など対人、コミュニケーション教育の充実が必要。		
11	鈴木絢子 委員	①質問	87	2 未来を創る教育の充実（小・中学校） ⑤基本的な取組 「人として備えたい力（人間性）」の育成 に対する主な内容	第11次では『キャリア教育の推進』という内容が『人権教育の推進』に変化した理由は。		【教育指導課】 キャリア教育は、一般的に労働観・職業観の育成や職業選択的な意味合いにとらわれがちであるが、教育現場では一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることに重点が置かれています。キャリア教育と人権教育は密接に関わっており、個人が自分らしく生き、他者の存在と権利を認め合うといった人権教育に焦点をあてることで、両者を推進することにつながると考え、キャリア教育という文言を人権教育に差替えましたが、内容としては第11次と変わっていません。
12	鈴木絢子 委員	①質問	87	2 未来を創る教育の充実（小・中学校） ⑤基本的な取組 「命を守る力」の育成 に対する主な内容	『命の重みを捉えることができる教育』とは。		【教育指導課】 安心安全な学校生活を送ることを原則とし、危険を回避する知識技能を身に付けたり、子ども自ら思考判断したりできるような学びの場を設定しています。 「特別な教科道徳」では、「人との関わり」「安全な暮らし」「情報モラル」「よりよい社会」のそれぞれ内容項目を計画的に配し、命の重みについて気づき、考え、深め、見つめ、生かす力の育成に取り組んでいます。

第3専門部会（政策目標4）に関する意見等

No	委員名	意見種別	頁	該当箇所	内容及び意見理由	修正案	市の回答
13	鈴木絢子 委員	①質問	88	3 生涯学習活動の推進 ②成果指標（KPI）	第11次の策定時より現状値が大幅に減少し、また目標値も前回の現状値よりも更に低くなっているのがとても弱腰に感じてしまうが、いかがか。		<p>【生涯学習課】</p> <p>指標①「市民満足度調査における生涯学習活動の推進に対する満足度」については、市民満足度調査（回答者数：約800人を想定）において、「生涯学習活動の推進」に満足と回答する市民の割合を評価指標としており、目標としては、毎年度10～11人程度の満足回答者の増加を図り、最終年度における満足度を70%に到達させることを設定しております。なお、令和7年度調査における市の取組（41項目）の満足度平均は57.8%であり、70%を達成した場合は、全41項目中上位5位以内に入る見込みです。このため、本目標値は他分野との比較においても妥当性・現実性を有する設定となっていると思料します。</p> <p>指標②「市民一人当たりの図書貸出冊数」については、当初は新図書館の建設を見込んだうえで目標値を設定していましたが、当該事業が白紙となったことから、目標を見直しました。市民の読書活動の促進と図書館サービスの充実に努め、今後、人口減少が進行する中であっても、現状の貸出水準を維持することを目標としました。</p> <p>以上の理由により、諮問案の通りとしたいと考えます。</p>
14	鈴木絢子 委員	①質問	90	4 青少年の健全な育成 ②成果指標（KPI）	第11次の策定時より現状値が大幅に減少し、また目標値も前回の現状値よりも更に低くなっているのがとても弱腰に感じてしまうが、いかがか。		<p>【生涯学習課】</p> <p>指標「地域学校協働活動への一人当たりの参加回数」については、対象の①あいさつ運動、②放課後子ども教室、③ふるさと教室、④夢チャレンジクラブの延べ参加者数の合計を児童・生徒の人数で除して算出しております。基準年である令和元年度に比べ、学校の統廃合により、実施する場としての受け皿が減少していることに加え、コロナ禍を経て活動の減少が回復していない状況であります。引き続き、あいさつ運動等を推進し、積極的に地域との連携を保てるように支援するとともに、ふるさと教室及び夢チャレンジクラブにおいては、実施回数に重点を置くのではなく、より多様で質の高い教室を提供するように注力していきます。以上のことから、目標値は諮問案のとおりとしたいと考えます。今後は、参加者のアンケートにおける満足度の向上も図ってまいります。</p>
15	竹川委員	②提案	90	4 青少年の健全な育成 ③現状と課題 ④施策の方針	携帯電話の使用に関わる問題・事件増加に対する啓発教育、氾濫するフェイク情報を見極める力の育成、中学生からは警察の協力を得た薬物対策に関する教育も急務。		<p>【教育指導課】</p> <p>No.12で回答したとおり、小・中学生については、「命を守る力の育成」に包含されています。情報教育や薬物乱用防止講座等を通して、命の重みについて気づき、考え、深め、見つめ、生かす力の育成に取り組んでいます。</p> <p>なお、小・中学校では、薬学講座として薬剤師会（学校薬剤師）・警察の協力を得て毎年全校で実施しています。</p>

第3専門部会（政策目標4）に関する意見等

No	委員名	意見種別	頁	該当箇所	内容及び意見理由	修正案	市の回答
16	濱田委員	②提案	92	5 市民スポーツ活動の推進 ③現状と課題 ■現状 ■課題	小室山公園の運動施設を再整備し青少年スポーツ、生涯スポーツの充実化の推進を盛り込んだらいかがか。		<p>【生涯学習課】 小室山公園につきましては、都市公園法第18条の規定に基づき、伊東市が設置する都市公園の位置付けであり、観光課が所管しております。 小室山公園の運動施設の再整備には、多額の予算が必要であることに加え、総合グラウンドはつつじ祭りの際に臨時駐車場として利用しているなど、課題が多いことから、財政課、観光課を始めとする関係課と慎重な協議を行ってまいります。</p>
17	竹川委員	②提案	96	7 郷土愛の醸成 ③現状と課題 ④施策の方針	働くことや地場産業の大切さ、社会がいろいろな職業、先人の貢献によって成り立っていることを成長にそって学ばせたい。古里伊東に生きる誇り、感謝の心の醸成。		<p>【企画課】 ご意見を踏まえ、④施策の方針の後段を以下のとおり修正します。 『・・・ながら、地域全体で高校生に対し、郷土伊東に生きる誇りや感謝の心など、郷土愛の醸成を図る環境づくりと未来を担う人材の育成機会の創出に努めます。』</p>